

令和3年度 さいたま市立東浦和中学校 自己評価書

校長 遠藤 浩之 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

◎「自ら考え行動する力」「自ら進んで学ぼうとする意欲」を育てる

- (1) 行事への参加意欲の醸成を図り、互いを認め高め合い居場所と存在感を実感させる活動により、秩序と活気のある学年・学級集団づくりを行う。→学校教育目標 学年・学級経営
- (2) ICTを活用した学びの改革を行い、「よい授業」の因子を踏まえた確かな学力の向上を目指し、魅力ある授業の展開を図る。(Grit) →生徒の学力・学習状況 教員の授業にかかわる評価
- (3) コミュニティ・スクールを核とした家庭・地域との連携を図り、保護者からの積極的な情報収集や、PTA組織、学校評議員会等と連携し、生徒の安全を図る→地域と連携した学校安全
- (4) 家庭との共通理解に立った指導や良さをみつけ褒める指導を基盤とした信頼関係づくりを行い、小さな変化も見逃さない体制での声掛け、関係機関と連携し組織的な生徒指導・教育相談の充実を図る。(Growth) →生徒の安心・安全 いじめの防止等 生徒指導 教育相談
- (5) 給食指導を核とし、アレルギー対応や安全指導の徹底を通して健やかな心と体を育む食育を推進する。→食育・保健指導 生徒の安心・安全
- (6) 教育環境の整備・充実を図り、清掃活動や日常の安全点検の徹底、教職員が生徒と向き合える時間の確保がとれるよう業務の精選を行う。→「学校における働き方改革」 安全指導
- (7) 小・中学校の積極的な交流を展開し、生徒指導、教育相談の連携を図るとともに、多様性を受け入れ激動する世界で活躍できる人材を育成するための国際理解を推進する。(Global) →小中一貫教育、国際理解

2 評価結果について

・「自ら考え行動する力」「自ら進んで学ぼうとする意欲」については、どの学年も全ての項目において1学期末より2学期末にポイントが上がっていた。職員の意識の下、自ら進んで学ぼうとする力が確実についてきている。今後もこの意識が高められるよう、更に検証し取り組ませていく。

・教育活動全般について、生徒のアンケートから「学校生活が楽しく充実している」の質問に対し、昨年度に引き続き95%の生徒が楽しく、充実していると回答している。保護者アンケートからは、「学校は安心・安全な生活環境を提供している」(施設・コロナ対応)に対し、昨年度より2ポイント上がり95%が肯定的な回答であった。また、「行事は生徒にプラスになっている」との質問に、肯定的な回答の割合が生徒・保護者共に91%を超えていることから、秩序と活気ある集団づくりは概ね達成したと言えるが、今後肯定的に回答できなかった生徒への配慮も大切にしていきたい。

・学習に関しては、「学習意欲の向上」について1年71%2年69%3年73%の回答となっており、「学校は学力向上に努めている」(保護者)の質問に対し、肯定的な回答が90%であった。自ら進んで学ぼうとする意欲が高められるよう、魅力ある授業の工夫を行っていく。

・ICTを活用した学びの改革では、よい授業のアンケートからICTを活用した授業の校内平均値が昨年度より0.9ポイント上がった。2学期には1年総合・3年特活・2年道徳の授業で全職員がタブレットを使用した授業を行い、ICTを使用した職員の意識を高め、魅力ある授業の展開を目指した。来年度は特別活動の発表があるので、全校でICTを活用し、自己肯定感が高められるよう学級活動を進めていく。

・生徒指導、教育相談については、①礼儀を大切にする②思いやりの心を持つ③自分で考え、判断し、行動できるようにすることを指導の軸とし取り組んだ。「ルールを守り意欲的に活動を行った」との質問に肯定的に回答した生徒が98%、保護者が94%とかなり規範意識の高さがうかがえた。また、いじめについては昨年度4件から本年度は発生件数が2件に減った。今後も件数にとらわれず小さな変化も見逃さない体制づくりや緊張感を持って取り組んでいく。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

・「自ら考え行動する力」「自ら進んで学ぼうとする意欲」が本年度の目標であったが、今年度はどの学年も傾向を確認し意識を高めるまでに留まったので、来年度は1学期の早い段階で、各学年で学年の傾向を検証し、全校共通の取組として、自ら進んで行動する力を高めるにはどうしたらよいか、話し合いを通じた研修を行い、生徒に力が付くよう職員一丸となって取り組んでいく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。